

6. 平成 19 年度研修見学会を振り返って

教育・企画委員長 戸邊 光一郎

本年度より千環協の教育・企画委員長を拝命いたしました。本年度の教育・企画委員会の担当する事業は上期が新任者教育と研修見学会、下期がパネルディスカッションの計 3 事業を担当します。その中の一つ研修見学会を 7 月 27 日（金）に日環協関東支部の協賛をいただき、首都圏環境計量協議会と共催で実施しました。

本年度の研修先を決定するに際し、神奈川、埼玉、東京、茨城の 4 コースをあらかじめ作成、5 月に行われる千環協合同委員会に提案し本年度の研修先及び実施日を決定することとしました。5 月 15 日（金）に開催された合同委員会では、過去に実施された研修見学会の時期、見学先、内容、等を検討した結果、本年度は千葉県単独の行事として行うことを前提とし、候補先を茨城県つくば市（宇宙センター又は産業総合技術研究所）、実施日を 7 月 27 日（金）、に決定しました。合同委員会では千葉県単独の研修見学会として企画しましたが、津上会長の指示により 5 月 25 日の首都圏環境計量協議会幹事会にも提案、同会の承認を得たため、今年も昨年同様首都圏環境計量協議会との合同企画となりました。

コースは、千葉駅を 8 時に出発、首都圏環協連の参加もあることから、つくばエクスプレスの流山おおたかの森駅でピックアップし、つくばに向かうコースを設定しました。また実施日まで 2 ヶ月以上あるにもかかわらず、つくば宇宙センターが夏休み期間とのことで予約がとれず、自動的に産業技術総合研究所（産総研）に決定、詳細を産総研の広報と検討した結果、計量関係を扱う団体とのことで産総研の「計量標準センター」で計量標準に関する説明及び施設見学をすることになりました。また一般見学施設として産総研にはサイエンススクエアつくば、地質標本館、JIS パビリオンの 3 つの施設がありますが、今回は時間の都合でサイエンススクエアつくば 1 箇所のみを見学することとしました。研修及び見学はすべて午前中に行い、遅めの昼食をつくば市から 30 分の牛久シャトーカミヤ（バーベキュー）に設定しました。

当日は、千環協：25 名、東環協：2 名、神環協：1 名、埼環協：3 名、日環協：1 名、の計 32 名の部隊が結成されました。天気にも恵まれ、千葉駅集合のメンバー 22 名は出発予定 5 分前の 7 時 55 分には千葉を出発、湾岸、首都高を經由し、常磐道の流山インターチェンジまでは渋滞もなく順調に運行でき、当初の予定より早く 9 時 10 分には流山おおたかの森駅に到着しました。早めの到着のため、結果的にはバスを待たせる形になりましたが、流山おおたかの森駅集合の 10 名が合流したのは当初の予定通り 9 時 30 分でした。そしてバスは再び柏インターから常磐自動車道でつくば市へと進め、予定通り産総

研には10時30分に到着しました。

最初に計量標準管理センター計量標準計画室：岸本室長から、独立行政法人：産業技術総合研究所計量標準総合センター（NMIJ：National Metrology Institute of Japan）の概略説明を受けた。計量標準センターは研究開発及び標準供給の実務を担当する「計測標準研究部門」と外部へのサービス提供の実務を担当する「計量標準管理センター」で構成されており、日本の計量標準の設定・維持・供給、計量器の検定・検査、研究・開発を行っている部門である。また経済規模のグローバル化に伴い、計量標準と法定計量に関する国際活動においても日本を代表する機関でもあるとのことであった。

続いて、2班に分かれて無機標準研究室と有機標準研究室の2施設の研究説明及び施設案内を受けた。無機標準研究室：日置昭治室長からは、無機標準物質として金属イオン標準液（バリウム・タリウム）、非金属イオン標準液（シアン化物イオン）、高純度無機標準物質（フタル酸水素カリ）、等の説明があった。またこの10年では無機標準物質の開発を行うとともに CCQM 国際比較、APMP 等の国際比較にも参加しており、技術は世界のトップクラスであるとの事であった。有機標準第2研究室：鎗田孝室長からは、環境計測等の分野での標準物質開発の目的についての説明を受けた。近年健康や環境の質に対する要求が高まり、化学物質のリスクを正しく評価し環境汚染に適切に対処するため、環境計測にも高い精確さと感度が要求されており、標準物質の整備が急がれている。有機標準第2研究室では、PCB や農薬などの多様な環境汚染物質について正確な分析法を確立し、信頼性の高い標準物質を開発・供給を行っているとのことであった。また環境分析用標準物質（ポリクロロビフェニル・塩素系農薬：低濃度及び高濃度の2種類、標準液）の説明も受け、実際に分析を行い分析法の妥当性の確認や分析技能の評価も行っているとのことであった。環境分析を担当する我々には1時間という短い時間であったが、計量標準の現状、最先端の分析技術の話の話を伺うことができ、非常に有意義でした。

続いて同じ敷地内にある一般見学施設「サイエンススクエアつくば」に全員歩いて移動した。同じ敷地内にあるといっても移動に約10分を要したように産総研はかなり広い。サイエンススクエアつくばでは「未来の技術がいっぱい！」をコンセプトに最先端の技術、多くの体験コーナーが企画されていました。進化するロボット、高効率型自転車、魅惑の立体映像などは、誰にでも分かりやすく、楽しく、大きな魅力いっぱい施設でした（産総研にはサイエンススクエア以外に一般の見学施設として、地質標本館と JIS パビリオンがあります。また隣接する敷地にはつくば宇宙センターJAXA もあります）。

12時30分に産総研を後にし、本日の昼食場所である牛久シャトーに向かいました。

牛久シャトー到着には予定より多少遅れましたが、入り口にて参加者全員の集合写真を撮った後、日環協：岡崎氏の音頭で乾杯、昼食をとりながら一つテン

トの下で懇親を深めました。

本年度の研修見学会は、昨年同様首都圏環境計量協議会と共催で行ないました。参加人数、高速道路の使用、当日のスケジュール等に一抹の不安を感じながらの実施となりましたが、皆様からの多大なる協力を賜り、ほぼ予定通り挙行できたことに感謝いたしております。今後も皆様が喜んで参加でき、そして有益な研修見学会にできるよう最善を尽くしたいと思います。有難うございました。

- 1 日時 平成19年7月27日(金)
- 2 見学先 (1) 産業技術総合研究所(産総研) つくば市
計量標準総合センター、サイエンススクエアつくば
(2) シャトーカミヤ(茨城県牛久市:牛久シャトー)
バーベキュー(昼食)、施設見学、みやげ
- 3 見学ルート
千葉三越前集合→(出発)→京葉道路・首都高・常磐道→流山おおたかの森駅合流→常磐道→産総研:計量標準センター→サイエンススクエアつくば→シャトーカミヤ:昼食→(出発)→圏央道・常磐道→柏の葉キャンパス駅途中下車→常磐道・首都高・京葉道路→千葉駅前解散

参加メンバー

| 会 員 名 | 参加者名 | 団 体 名 称 | |
|-----------------|---------|---------|-------|
| (株) 環境管理センター | 吉本 優 | 千 環 協 | |
| (株) 環境管理センター | 永田 耕一 | | |
| (株) 環境管理センター | 伊藤 梓美 | | |
| キッコーマン(株) | 戸邊 光一朗 | | |
| キッコーマン(株) | 古矢 光男 | | |
| (株) ジオソフト | 鈴木 民夫 | | |
| 習和産業(株) | 津上 昌平 | | |
| 習和産業(株) | 郡 嘉政 | | |
| 習和産業(株) | 土田 大樹 | | |
| 習和産業(株) | 押尾 直樹 | | |
| 習和産業(株) | 下里 友則 | | |
| (株) 住化分析センター | 村上 高行 | | |
| (株) 太平洋コンサルタント | 丸田 俊久 | | |
| (株) 太平洋コンサルタント | 清川 久義 | | |
| (株) 太平洋コンサルタント | 斉藤 勇樹 | | |
| 中外テクノス(株) | 鈴木 信久 | | |
| 東電環境エンジニアリング(株) | 松本 崇 | | |
| 東電環境エンジニアリング(株) | 関根 裕 | | |
| 東電環境エンジニアリング(株) | 半澤 裕太 | | |
| (株) ユーベック | 小柳 鑑子 | | |
| (株) ユーベック | 古口 香織 | | |
| (株) ユーベック | 玉作 沙季 | | |
| (株) コスモス | 篠塚 祐幸 | | |
| (株) コスモス | 渡邊 純子 | | |
| (株) 東海地質 | 初瀬川 ひろ美 | | |
| いであ(株) | 鈴木 幹夫 | | 東 環 協 |
| (株) 化学分析コンサルタント | 目山 貞由紀 | | 神 環 協 |
| (株) 総合環境分析 | 水越 弘道 | | 埼 環 協 |
| 浅野テクノロジー(株) | 高梨 正夫 | | |
| (社) 埼玉県環境検査研究協会 | 山崎 研一 | 日 環 協 | |
| (株) 環境管理センター | 田中 孝一 | | |
| (社) 日本環境測定分析協会 | 岡崎 成美 | | |



産総研：計量標準センターにて説明を受ける



シャトーカミヤにて記念撮影